

教育・文化施設

施設概要

◇渡辺翁記念会館

20世紀を代表する建築家 村野藤吾氏の設計の傑作として国内外に広く知られた建造物であり、昭和12年に大規模な公演や講演会が開催される施設として整備され、コンサート等のほか、文化行事の全国大会など幅広く利用されています。平成17年には国の重要文化財に指定されました。

◇文化会館

渡辺翁記念会館に隣接して、中規模なホールと展示室や会議室を併せ持つ文化施設として整備され、コンサート、講演会、展示会など市民の文化活動の拠点として多くの市民に利用されています。

◇図書館

生涯学習の拠点施設として整備され、資料の収集、整理、保存を行い、情報化、国際化など、社会の進展に応じた情報の収集、サービスの提供を行っています。

◇学びの森くすのき

図書館、博物館及び学習機能を有する施設として整備され、市民と協働しながら教育支援活動を行うことで、地域の交流の拠点となっています。

◇旧宇部銀行館（ヒストリア宇部）

20世紀を代表する建築家 村野藤吾氏が設計し、昭和14年に宇部銀行本店として建設されたもので、戦災を免れ、本市の復興を見守り続けた歴史的価値のある建物として保存・活用していくために、山口銀行から寄贈を受けた後、耐震改修等を実施した上で、平成22年に「ヒストリア宇部」としてリニューアルオープンし、市民の情報発信、交流拠点として幅広い世代に利用されています。

◇男女共同参画センター・フォーユー

昭和57年に「働く婦人の家」として設置され、女性労働者の福祉に関する事業を総合的に行うとともに、男女共同参画の推進に関する施策を実施する施設として機能しています。

◇勤労青少年会館

昭和42年に未来を担う青少年の活動拠点として建設されました。

昭和45年に施行された「勤労青少年福祉法」は、平成27年に「青少年の雇用の促進等に関する法律」に改正され、勤労青少年福祉対策としての地方自治体の勤労青少年ホーム設置の努力義務もなくなったから、本会館は役割を果たし、その役割を終えた施設ともいえます。現在は、幅広い年齢層の団体等の活動拠点として利用されています。

◇まちなか環境学習館

環境学習拠点の一つとして市民や環境活動団体等の環境学習や環境保全活動を支援するとともに、中心市街地の活性化を図るため、平成23年8月に整備され、学習室やミーティングルームの運営、環境関連の情報発信を行う施設として機能しています。

◇旧図書館附設資料館

当初は図書館として整備されましたが、平成2年の新図書館建設に伴い、現在は主に郷土資料等の収蔵庫として活用しています。

令和2年4月1日現在の施設概要

施設名称	地区	建築年度	築年数	構造	耐震化		延床面積 (㎡)	運営	防災 施設
					診断	改修			
渡辺翁記念会館	新川	昭和12年度	82年	R C	済	未	4,582.55	指	非該当
文化会館	新川	昭和54年度	40年	R C	済	未	3,581.60	指	該当
図書館	琴芝	平成2年度	29年	R C	不要	不要	4,094.00	直	非該当
学びの森くすのき	船木	平成24年度	7年	R C	不要	不要	2,025.40	直	非該当
旧宇部銀行館（ヒストリア宇部）	神原	昭和14年度	80年	R C	済	済	1,280.63	指	非該当
男女共同参画センター・フォーユー	琴芝	昭和56年度	38年	R C	不要	不要	1,566.80	指	非該当
勤労青少年会館	神原	昭和42年度	52年	R C	済	未	2,394.56	直	該当
まちなか環境学習館	新川	昭和63年度	31年	S	不要	不要	319.20	指	非該当
旧図書館附設資料館	新川	昭和27年度	67年	R C	未	未	1,830.55	直	非該当

※RC・・・鉄筋コンクリート造、S・・・鉄骨造、CB・・・コンクリートブロック造、W・・・木造

【備考】

- 建築年度、築年数、構造、耐震化は、主たる建物の状況を記載しています。
- 耐震化について、昭和57年以降の建築物（新耐震基準）、耐震診断により新耐震基準を満たしていることが判明した建築物は、「不要」と記載しています。
- 運営について、直営は「直」、指定管理は「指」、委託（指定管理を除く。）は「委」と記載しています。
- 防災施設について、災害時に避難所、緊急避難場所、防災拠点として使用される施設は、「該当」と記載しています。

施設評価及び今後の方向性

担当課	1次評価（定量評価）				2次評価（定性評価）						
施設名称	ソフトの評価			ハードの評価 建物性能	施策上等の必要性	代替の可能性					
	利用状況	経費効率	(利用)+(経費)								
文化・スポーツ振興課	A	C	A	C	3点	0点					
渡辺翁記念会館	評価結果の分析				評価結果の分析						
	昭和12年に建設された大規模な文化公演等が開催できる市内唯一の施設で、国の重要文化財であるが、老朽化した施設を維持するには多額の費用がかかっている。平成27年に耐震診断を行った結果、耐震性を有していないことを確認済み。				平成17年に重要文化財に指定された国内の近代建築を代表する建造物である。宇部市の貴重な文化遺産で、芸術文化活動の拠点施設であり、今後も宇部市民の憩いの場となるとともに、宇部市のシンボリックな建築物として保存、活用する必要がある。						
	今後の方向性（R2～R11）										
	機能の方向性				建物の方向性						
	現状維持				耐震化、長寿命化改修						
	スケジュール							対策費（千円）			
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	3,377,600
	説 明										
	国の重要文化財であり、かつ大規模な文化公演等が開催できる市内唯一の施設である。平成27年に耐震診断を行い、耐震性を有していないことを確認したことから、耐震工事に合わせ、長寿命化改修や機能強化を実施する。										

担当課	1次評価（定量評価）				2次評価（定性評価）						
施設名称	ソフトの評価			ハードの評価 建物性能	施策上等の必要性	代替の可能性					
	利用状況	経費効率	(利用)+(経費)								
文化・スポーツ振興課	A	C	A	A	3点	0点					
文化会館	評価結果の分析				評価結果の分析						
	年間約10万人の利用があり、中でも展示室、研修室の利用が多い。昭和54年に建設され、避難所に指定されている。令和元年に耐震診断を行った結果、耐震性を有していないことを確認済み。				宇部市民の文化活動の拠点施設として、渡辺翁記念会館と一体的に維持していく必要がある。専用の展示室、舞台装置が設置された500人規模のホールは他の市内施設にはない。						
	今後の方向性（R2～R11）										
	機能の方向性				建物の方向性						
	現状維持				耐震化、長寿命化改修						
	スケジュール							対策費（千円）			
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	954,750
	説 明										
	渡辺翁記念会館に隣接し、市民の文化活動の拠点となっている。令和元年に耐震診断を行い、耐震性を有していないことを確認したことから、耐震工事に合わせ、長寿命化改修や機能強化を実施する。										

担当課	1次評価（定量評価）				2次評価（定性評価）						
施設名称	ソフトの評価			ハードの評価 建物性能	施策上等の必要性	代替の可能性					
	利用状況	経費効率	(利用)+(経費)								
図書館	A	C	A	A	3点	1点					
	評価結果の分析				評価結果の分析						
図書館	利用者数が1日平均1,200人あり、市民の生涯学習の拠点施設となっている。 建物は耐震性はあるものの、経年による空調・昇降機設備の改修が課題であるとともに、今後も個別に小規模な修繕を実施する必要がある。				図書館法第10条の規定に基づき、宇部市立図書館条例により設置している。 これまで、図書館運営体制について、市民ワークショップや図書館協議会において協議の結果、現在は直営で業務を行っている。						
	今後の方向性（R2～R11）										
	機能の方向性				建物の方向性						
	現状維持				現状維持						
	スケジュール							対策費（千円）			
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	0
	説 明										
生涯学習の拠点施設として整備され、資料の収集、整理、保存及び情報化、国際化など、社会の進展に応じた情報の収集、サービスの提供を行っている。 今後も日常的補修を適宜実施し、現状を維持する。											

担当課	1次評価（定量評価）				2次評価（定性評価）						
施設名称	ソフトの評価			ハードの評価 建物性能	施策上等の必要性	代替の可能性					
	利用状況	経費効率	(利用)+(経費)								
学びの森くすのき・ 地域文化交流課	A	C	A	A	3点	1点					
	評価結果の分析				評価結果の分析						
学びの森くすのき	利用者数が1日平均250人と多く、市民の学習・文化・創造活動の拠点となっている。				図書館法に基づく学びの森くすのき図書館と併せて博物館法に基づく博物館として学びの森くすのき資料館を設置している。文化財保護行政など行政機関の業務との連携により成り立っている側面があるため施策上の必要性も高く民間等の代替可能性は低い。						
	今後の方向性（R2～R11）										
	機能の方向性				建物の方向性						
	現状維持				現状維持						
	スケジュール							対策費（千円）			
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	0
	説 明										
平成24年度に図書館、博物館及び学習機能を有する施設として整備され、市民と協働しながら教育支援活動を行い、多くの市民に利用される交流の拠点となる施設となっている。 日常的補修を適宜実施し、現状を維持していく。											

担当課	1次評価（定量評価）				2次評価（定性評価）						
施設名称	ソフトの評価			ハードの評価 建物性能	施策上等の必要性	代替の可能性					
	利用状況	経費効率	(利用)+(経費)								
都市計画・住宅課	C	A	B	A	3点	0点					
	評価結果の分析				評価結果の分析						
旧宇部銀行館 (ヒストリア宇部)	歴史的価値のある建造物として保存・活用していくために、耐震補強工事など行っているが、築50年を超える建物であるため、今後も随時修繕は必要となる。利用状況の評価については、新型コロナウイルス感染症対策に伴う休館の影響によるものである。				歴史的価値のある建造物を保存・活用していくために、市民と運営方針を検討し、市民の憩いの場となる「まちのシンボル」とすべく、平成22年にリニューアルした。今後も、中心市街地のにぎわい創出の拠点として、保存・活用していく必要がある。						
	今後の方向性（R2～R11）										
	機能の方向性				建物の方向性						
	現状維持				長寿命化改修						
	スケジュール								対策費（千円）		
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	34,577
	説明										
昭和14年度に建設され、歴史的価値のある建造物として保存・活用していくために、平成21年から平成22年にかけて耐震補強・大規模改修工事行っているが、築後50年を超える建物であるため、今後も随時修繕は必要となる。概ね大規模改修工事後15年を経過する時期を目途に、施設の劣化状況等を総合的に判断し、長寿命化改修を行う。											

担当課	1次評価（定量評価）				2次評価（定性評価）						
施設名称	ソフトの評価			ハードの評価 建物性能	施策上等の必要性	代替の可能性					
	利用状況	経費効率	(利用)+(経費)								
人権・男女共同参画推進課	B	A	A	A	2点	1点					
	評価結果の分析				評価結果の分析						
男女共同参画センター・フォーユー	利用者は、令和元年度で年間約65,000人、1日平均約180人の利用があり、ニーズは高いと言える。 昭和56年度に建設され、施設の老朽化が進んでいるが、適切な改修を行いながら、施設を維持している。				「宇部市働く婦人の家」として建設され、「男女共同参画社会基本法」の施行を契機に、男女共同参画センターとしての機能が追加され、県内市町で唯一となる宇部市配偶者暴力相談支援センターを併設しており、代替の可能性は低い。						
	今後の方向性（R2～R11）										
	機能の方向性				建物の方向性						
	現状維持				長寿命化改修						
	スケジュール								対策費（千円）		
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	270,618
	説明										
施設が依拠とする「男女共同参画社会基本法」のほか、平成27年施行の「女性活躍推進法」の趣旨を踏まえると、男女共同参画の推進拠点である当施設の機能は重要である。昭和56年度に建設され耐震性があり、概ね築45年を経過する時期を目途に、施設の劣化状況等を総合的に判断し、長寿命化改修を行う。											

担当課	1次評価（定量評価）				2次評価（定性評価）						
施設名称	ソフトの評価			ハードの評価 建物性能	施策上等の必要性	代替の可能性					
	利用状況	経費効率	(利用)+(経費)								
こども・若者応援課	C	B	C	C	0点	2点					
	評価結果の分析				評価結果の分析						
勤労青少年会館	趣味やサークル活動、音楽やダンスの練習の場として利用者が多く、多目的音楽室や視聴覚室は比較的利用率が高いが、その他の部屋は利用率が低い。昭和42年に建設され、平成29年度に実施した耐震診断では、耐震性がかなり低い建物である。				「勤労青少年福祉法」の改正に伴い、地方自治体の勤労青少年ホーム設置の努力義務もなくなったことから、役割を十分に果たし、その役割を終えた施設と言える。近隣公共施設への機能移転は、多世代ふれあいセンター等が考えられる。						
	今後の方向性（R2～R11）										
	機能の方向性				建物の方向性						
	廃止				売却						
	スケジュール										
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	0
	説明										
	利用者や経費効率に関する評価が低く、また、昭和42年度に建設され、築後50年以上が経過し、耐震性もないため、近隣の公共施設に機能を移転の上、廃止する。廃止後は、建物付きで売却を検討する。										

担当課	1次評価（定量評価）				2次評価（定性評価）						
施設名称	ソフトの評価			ハードの評価 建物性能	施策上等の必要性	代替の可能性					
	利用状況	経費効率	(利用)+(経費)								
環境政策課	C	C	C	A	3点	1点					
	評価結果の分析				評価結果の分析						
まちなか環境学習館	1日当たりの利用者が過去3か年平均と比較して減少している。昭和63年度に建設され、老朽化が進んでいるが、耐震性があり、早急な改修は必要ない。				環境学習拠点の一つとして環境学習の推進や環境保全に貢献する人材の育成等の役割を担ってきたが、民間移管や地域住民の自主的管理は難しいと考える。						
	今後の方向性（R2～R11）										
	機能の方向性				建物の方向性						
	現状維持				現状維持						
	スケジュール										
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	0
	説明										
	昭和63年に建設され、老朽化が進んでいるものの、耐震性があり、早急な改修が必要となる箇所はない。環境団体の事務所を集約し、環境団体間の連携を深め、環境保全活動の拠点としての機能強化を図る。										

担当課	1次評価（定量評価）				2次評価（定性評価）						
施設名称	ソフトの評価			ハードの評価 建物性能	施策上等の必要性	代替の可能性					
	利用状況	経費効率	(利用)+(経費)								
学びの森くすのき・ 地域文化交流課	C	A	A	C	0点	3点					
	評価結果の分析				評価結果の分析						
旧図書館附設資料館	行政資料や郷土資料等の収蔵庫として活用している。 昭和27年度に建築された築後67年が経過する耐震性のない施設で、耐震改修は実施していない。				現図書館、学びの森くすのきの整備により、施策上の機能は終了している。郷土資料等の保管場所を確保することにより代替も可能となる。						
	今後の方向性（R2～R11）										
	機能の方向性				建物の方向性						
	機能移転				売却						
	スケジュール							対策費（千円）			
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	0
	説 明										
昭和27年度に建築された築後67年が経過する耐震性のない施設である。建物の老朽化が顕著で、現状を保持することが困難であるため、学びの森くすのき、図書館等に機能を移転の上、廃止する。 廃止後は、建物付きで売却を検討する。											